

羅 針 盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評 価 対 象	評 価 項 目	具体的数値項目		自己評価	外部アンケート等	総合		
Ⅰ 特色ある学校づくりに努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	単位制・2期制の教育課程に、生徒の70%以上が満足している。	生徒の実態把握のためのアンケートを実施するとともに、適切な講座選択の指導をする。	A	A	A	・生徒の実態把握のためのアンケートとして、学校評価アンケートを年2回、学校生活アンケートを年2回の計4回実施している。適切な講座選択の指導をするために、2月初旬から3月の終業式までの間約2カ月にわたって履修指導を実施している。結果として講座選択に満足している生徒はアンケート回答者110名中、109名の99.1%であった。 ・学校評価アンケートで学校行事等に積極的に取り組んでいる生徒は回答者110名中96名で87.2%であった。 ・ICTを利用した意見の共有は順調に進んでおり、年間行事の作成等もGoogleドライブを使い、共有しているデータに各自が書き込み形で行うようになった。アンケートの結果100%の職員が生徒の情報共有が進み情報把握が進んでいると回答している。しかし、課題として情報管理・セキュリティーの問題が上がっている。	A：単位制／2学期制への理解や満足度が高いことは、非常に喜ばしく感じます。ICT利活用に伴う管理、セキュリティ意識について、関係者としても課題感を感じており、今後の取り組みや対策を期待します。
		生徒が、自分で考え、学校生活における課題を解決しようとする。その結果として、学校生活に積極的に取り組む生徒が70%以上になるようにする。	自ら学び、共に学ぶ学習を支援し、学校行事や部活動を充実させ、積極的参加を促す。	A	A	A		
		様々な生活背景をもつ生徒に対応するために、職員が生徒の情報をしっかりと把握できるようにする。その結果として職員の90%以上が生徒の情報を共有できていると考えている。	ICT等を利用し、職員間の意見の共有をすすめる。	B	A	B		
Ⅱ 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	生徒の実態を把握し、生徒が自ら考え、判断し、行動できる授業を実施し、80%以上の生徒がよく理解している。	学力実態に応じた指導方法を検討する。基礎学力が低い生徒でも理解しやすい授業を展開する。	B	A	B	・アンケート回答者110名中授業にしっかり取り組んでいると答えた生徒は88名で80%である。授業はわかると答えた生徒は99名で90%であった。大多数の生徒が理解できる授業を実施している状態である。しかし、準備が少なくとも理解できる授業は内容面で易しすぎるともいえるため、今後は授業内容のレベルについて、再考が必要がある。	A：生徒一人一人に合わせるのは大変だと思われませんが、退学数などの減少を見ると先生の細かい配慮があり取り組めていると思います。
		時間割の作成を通し、自ら学びを作る力の育成をする。その結果として、80%以上の生徒が自分の作成した時間割に満足している。	生徒の進路・興味に沿った時間割を作成できるように、担任等が生徒とよく話し合う。	B	A	B	・アンケート回答者110名中の98名の89.1%が履修指導に満足しており、自分の作った時間割を気に入っている状態である。教職員から、課題として1年次生徒は履修指導をしても教科内容について理解不十分のまま履修登録をしている。それが原因で教科に対する学習に興味を持てない状況があるという意見がでている。	A：自分の作った時間割を「気に入っている」という表現は、積極性や自立を感じ、非常に良いと思います。 B：過去の不登校による基礎学力の低下については、全員の足並みを揃えることは大変だと感じていますので、引き続き先生方の工夫や現場力に頼ることも多いかと思います。
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	誰一人取り残さない学びを意識した習熟度別授業を通し、基礎学力をつけるための国・数・英の基礎講座を受講する生徒は、90%以上の生徒が授業に満足している。また、思考力・判断力・表現力を育てる応用的な内容の講座を受けている生徒の80%以上が授業に満足講科目において履修が成立した生徒の95%以上が単位を修得している。	授業改善を推進し、指導方法を検討する。少人数指導・個別指導を通して学力の向上を図る。また、さらなる学力の向上に資するよう、生徒の実態に合わせて、主体的・対話的に取り組める授業を展開する。	B	A	B	・国・数・英では習熟度別の授業を行っている。基礎の講座選択者で授業を理解できると答えた生徒は回答者56名中50名の89.3%であった。精選の講座選択者で授業を理解できると答えた生徒は回答者31名中30名の96.8%であった。生徒が理解できる授業を実践している。精選より難易度の低い基礎講座の理解度が低いという現状は、中学で学ぶ内容を理解していない生徒に対する対応ができていないと考えられる。中学時代に完全に不登校で授業を受けていなかった生徒への対応が十分でないといえる。 ・前期終了時点で1026単位の認定があったが、履修が成立していて未修得となった単位数は9単位であった。休みがちな生徒への学習支援がうまく行っていると考えられる。しかし、長期欠席者数はなかなか減らず、対策がうまくできていない実態がある。	B：入学前学力診断が一定未満レベル者にIh-e-Learning教材等によるリメディアル対応という方法もありますが、個人的には根本的な解決には至らないと感じています。
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか。	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	不登校生徒等への対策として、毎週1回生徒・保護者とスクールカウンセラーとの面談日を設定し、係・担任等連携し指導にあたる。	担任、係を通じて、生徒・保護者に対してカウンセリングを紹介する。必要に応じて情報を共有し、連携して対応する。	A	D	C	・毎週1回、スクールカウンセラーとの面談日を設定し、予定通り実施した。担任や係を通じて生徒・保護者にカウンセリングの必要性を丁寧に説明し、多くの対象者にアプローチをした。教育相談係、特別支援係、養護教諭、スクールカウンセラーと連携し、情報を共有しながら支援した。学校評価アンケートの結果67.2%の生徒がカウンセリングは必要ないと考えている。次年度はスクールカウンセラーの有用性をより強調し、初期段階での不登校兆候のある生徒に対する早期発見・支援体制を強化したいと考えている。	A：いじめなどの発見防止などの取り組みが行われ、より良い環境が作られていると思います。 C：スクールカウンセラーに関する質問項目を非利用者と利用者毎にわけて質問内容を変更する等工夫すると良い。
	5 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	互いを理解・尊重する活動の推進を通し、いじめの発生防止に努め、迅速かつ組織的に対応し、いじめの解消率が100%である。	学校生活アンケートを実施して、生徒の状況を把握するとともに、いじめ対策委員会を組織し、いじめ解消に向けて迅速に対応する。	A	A	A	・今年度、いじめの認知件数は3件であった。事案については解決に向け迅速に組織で対応した。次年度は二者面談を増やし、いじめの未然防止・早期発見に力を入れたいと考えている。人権やいじめ等に係る教室を年2回以上実施した。次年度も引き続き生徒の人間関係スキル向上を目指し、面談や学校生活アンケートを活用して、全職員で共有し、生徒一人ひとりの学校生活を注意深く観察して声かけや相談対応に努めていく。学校評価アンケートの結果生徒・教員とコミュニケーションが取れると考えている生徒は94.5%であり、生徒の状況を把握しやすい状態になっている。	A：いじめについては、本人が無自覚や非認知の場合もあると考え、強い警戒と支援体制を引き続き継続していただきたく思います。
		互いを理解・尊重する活動の推進として、人権やいじめ、コミュニケーション等に係る教室を年2回以上実施する。	人間関係のスキルアップを図り、いじめの未然防止に向けて、いじめ問題を自分のこととして捉え活動できるよう支援する。	A	A	A	・学校評価アンケートで「清陵が好き」と答えた生徒が86%、「先生や生徒同士でコミュニケーションがとれている」と答えた生徒が87%いた。多くの生徒が学校に好意的な印象を持ち、安心して過ごせる環境が整っていることが分かる結果であった。このことから、生徒にとって居心地の良い学校づくりが一定の成果を上げていると感じている。今後もちこの雰囲気を持続・向上させるため、さらに細やかな支援と取り組みを進めていく。	A：学校生活に積極的に取り組んでいるという評価が87%というのは、非常に素晴らしいと感じています。残り13%の考慮というよりも、80%台を継続することが大切だと感じています。
Ⅳ 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	6 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	様々な背景要因により、本来持つしなやかさや力強さを発揮しつらい子どもによる支援を通し、学校が居心地の良い場所に感じている生徒が70%以上になる。	「規律」「学力」「自己有用感」の育成を意識して適切な指導・支援を行う。	A	A	A	・部活動や委員会活動、学校行事などの活動に生徒たちは意欲的に取り組むことができた。次年度も積極的な参加を呼びかけ、活動のさらなる活性化を図り、生徒が充実感や達成感を得られるよう努めていきます。また、学校評価アンケートの結果積極的に学校生活に取り組んでいる生徒は87%であった。	
		主体的に社会の形成に参画する態度の育成を養うため、部活動、学校行事などの体験的・主体的な活動で、大会、公演、作品発表等に各団体（部・委員会等）が1回以上参加する。	部活動、委員会活動等への積極的な参加を促し、活動の活性化を図る。	A	A	A		
	7 計画的な指導を行っていますか。	進路通信を月1回（8月を除く年間11回）配付する。進路希望調査を前期・後期の年2回実施し、生徒に進路を考える機会を与え、生徒の進路意識の実態を把握する。また、進路希望に対する家族の理解が50%以上である。	担任による個別面談やHRでの指導や進路行事を計画的に実施するによって、生徒が進路を真剣に考え、行動できるよう支援する。自ら動くことしない生徒に対しては、教員から積極的に声かけをし、生徒の行動を促す。	A	A	A	・進路行事に関しては外部業者に依頼し、職業に関する講話及び体験などを実施した（1年6回、2年2回、3年5回）。また、地域の企業で働いている方を招き、職業講話及び人生講話を実施し卒業後の進路について考える機会を設けた。アンケートの結果、進路希望を理解している家族は110名中93名の84.5%であった。	B：進路などについて、細かい配慮が行われていると思います。 A：進路に関して多角的な情報提供ができていていると感じています。 A：進路に対する意思決定支援を、引き続き宜しく願いいたします。
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	「自己の生き方」と「将来の職業」との関連を深く考え、進路実現に向けて積極的に取り組んでいる生徒が50%以上である。	年2回の調査を実施し、生徒の実態を把握し、進路指導に生かしていく。生徒の個別の調査結果を教員間で共有し、生徒の進路実現に向けて積極的に指導を行っていく。進路通信の内容を各学年や進学・就職希望者ごと、保護者向けに分けるなど効果的に進路情報を提供するとともに、三者面談等で生徒に関する情報を保護者と共有し、協力する体制を構築する。	B	A	A	・進路希望調査は年2回実施した。年度初めの希望調査では、進路未定者が1年18名、2年6名、後期は1年9名、2年6名、ともに減少した。進路通信には、卒業生の声を掲載することで、より身近な情報として提供した。保護者向けの情報提供が少なかったため、来年度は保護者向けを意識して配信する。アンケートの結果、進路の実現のために努力している生徒は110名中92名の83.6%であった。	
		家庭、地域社会に本校を知ってもらうため、学校説明会・授業公開を実施する。また、学校の教育活動を理解してもらうために、月3回以上の学校Webページによる情報発信を行う。	学校説明会で保護者に情報発信する。学校Webページの更新を適宜行う。	A	A	A	・学校Webページ、インスタグラムともに月3回程度の更新を行っている。また、学校説明会は年1回実施を、2回実施に拡充した。新入生が母校を訪れ清陵高校の生活を紹介する活動も行い、前橋市教育委員会等の実施する学校説明会にも積極的に参加し情報発信を行っている。学校説明会後のアンケートでも年々Webページを見て清陵に興味を持ったという生徒が増えている。	A：保護者がもう少し参加できることがあればいいと思います。 A：SNS利活用やWebページ更新は、始めた以上はやめられませんので、継続した情報発信を望みます。 A：学校説明会実施タイミングも、進路決定ギリギリのタイミングでの実施も検討して欲しいです。
	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	学校の教育活動を保護者に理解してもらうため、PTA通信の発行を年2回、マナーアップ運動への参加を年3回、大学・専門学校見学会と企業見学会をそれぞれ年1回実施する。	PTAと連携し、PTA通信を発行する。PTA総会時の学校説明や担任との懇談、マナーアップ運動への参加を通して保護者と情報交換を行い連携を図る。	B	—	B	・例年通り年2回のPTA通信を発行した。PTA総会も土曜日に実施し、なるべく多くの保護者が参加し、学校側と情報交換できるようにした。	
Ⅵ 教育デジタル化に努めていますか。	10 ICTを活用した指導を行っていますか。	デジタルツールを使いこなせるようになることを意識した、ICTを活用した授業に、生徒の70%以上が満足している。	生徒が「主体的・対話的で深い学び」を行えるようにICTを使った授業の組み立てを心がけ、実践する。	A	A	A	・芸術等一部の教科を除き全ての講座でICTを使用した授業が実施されている。アンケート回答者110名中101名の92%がこの状態に満足している。Kahoot!、canvaなど様々なサイトを使用した授業が展開されているが、まだ内容が手探りの状態である。	C：パソコンなど持てない生徒もいると思いますが、細かい配慮が行われていると思います。 A：ICT利活用が当たり前の世界観を意識し、新技術の導入や創意工夫を凝らした利活用方法など、引き続き研究を続けていただきたいです。
	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	教職員が能力を最大限発揮できる環境を整備することの一環として、実施するCTを活用した通知やアンケートについて、職員の90%以上が業務改善につながっていると考えている。	通知やアンケート,家庭との連絡を電子媒体に変えることをさらに進める。	B	A	B	・保護者あて通知を除き、全ての通知が電子媒体になった。電子媒体になり、簡単に情報のやり取りができるようになった反面、情報の取扱いに細心の注意が必要である。	B：ICT利活用に伴う管理、セキュリティ意識について、うっかりミスによるヒューマンエラートラブルの頻度が高いため、定期的に、他校事例の共有や研修等を取り入れ、継続的な対策をしっかりと施す必要があると感じています。